リレーエッセイ　№.８　　足立洋子

清水みどりさんからバトンを受けた足立です。

私はみなさんご存じの埼玉の中村さん、そして今回バトンを受けた清水さんと同学年、2011 年、あの大震災の 3 月に仕事人生を卒業しました。それまでは東京都の小中学校事務職員で、東京都学校事務職員労働組合（東学）の練馬支部書記長・副支部長・支部長をやっていて、途中東学本部の執行委員をやっていた関係で中村さんと親しくさせていただく機会を得ました。そして、退職を前に、中村さんが「公教育計画学会」を立ち上げるというお話しがあり、『枯れ木も山の賑わい』と思い参加させていただき、今に至っています。

中村さんとも知り合いになるきっかけとなった本部執行委員時代、女性関連課題を担当し学習会や講演会に参加する中、女性の非正規雇用問題が気になり、練馬支部に戻ってからは支部にとって重要課題の一つ「定数問題」で区教委と攻防を重ねる中、2006 年に区費事務職員に替えての非常勤職員配置に（いろいろ条件を付けたとはいえ）合意という苦渋の選択をせざるを得ないという経験をし、退職後はボランティア活動を！！と漠然と考えていたものが「退職後は非正規雇用の人たちを支援する活動をしている組織のお手伝いをしたい」と思うようになりました。

退職後、1 年間専門学校の学生をやり福祉全般を広く浅く学び、「さて、何をしようか？」と考えた時真っ先に浮かんだのは派遣ユニオンでした、が、組合はもういいや～との思いが強く、NPO 法人〈もやい〉のＨＰを見たところ「セミナーにいらっしゃい」とあったのでとりあえず行ってみて、活動に参加し、気がつけば 2 年 9 カ月が経っています。

この 3 年弱、非正規雇用とも深くかかわっている『貧困』の現場での活動を通し、「貧困とはお金がないだけではないこと」「フォーマル・インフォーマルを問わず社会資源から排除されていく過程は階段を降りていくようだが、降り切った時目の前に登りの階段はなく崖がそびえていること」等々日々考えさせられています。社会そのもの・制度そのものを変えなくては・・との無力感に襲われることもしょっちゅうですが、今、自分にできることを一つ一つやっていこう！！と自らを励ます今日この頃です。

この間公教育計画学会教育行財政部会で、〈もやい〉のこと・生活保護制度のこと、先月は「子どもの貧困」についての話をさせていただきました。当初、私が関わっていることが教育行財政部会のテーマになるのかな？と思っていましたが、中村さんから「公教育と貧困問題は不可分の関係」と言っていただき、先月は「福祉と教育の関係」についてのご意見も聞き、合点がいった気がしています。

教育は「教え育む」こと、福祉は「しあわせ」を意味する言葉、この二つが一体としてとらえられる社会ができるといいな～と思っています。

それでは、江野本啓子さんにバトンを渡します。